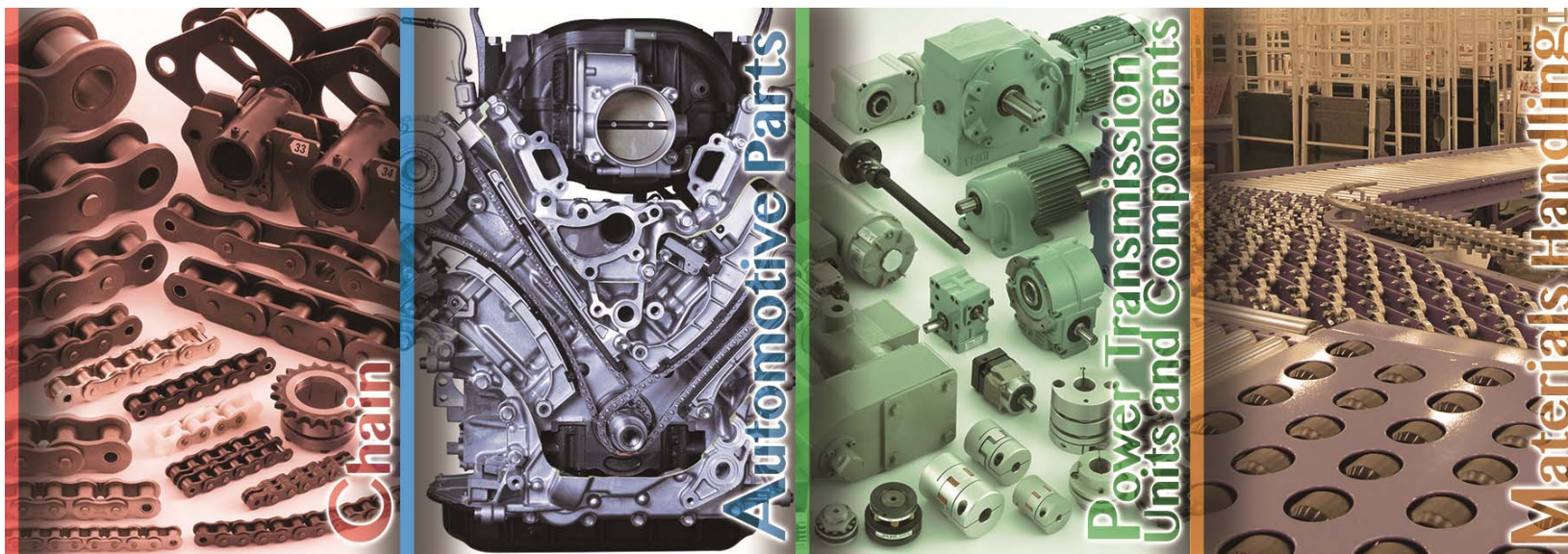


株式会社椿本チエイン 2018年3月期 決算説明会



2018年5月23日

2018年3月期 連結業績報告

注) 本資料で表記する「通期」は、当該連結会計年度における
「4月1日～翌年3月31日」を示します。
(海外子会社の一部は「1月1日～12月31日」)

1. 18年3月期レビュー 連結決算ハイライト

2

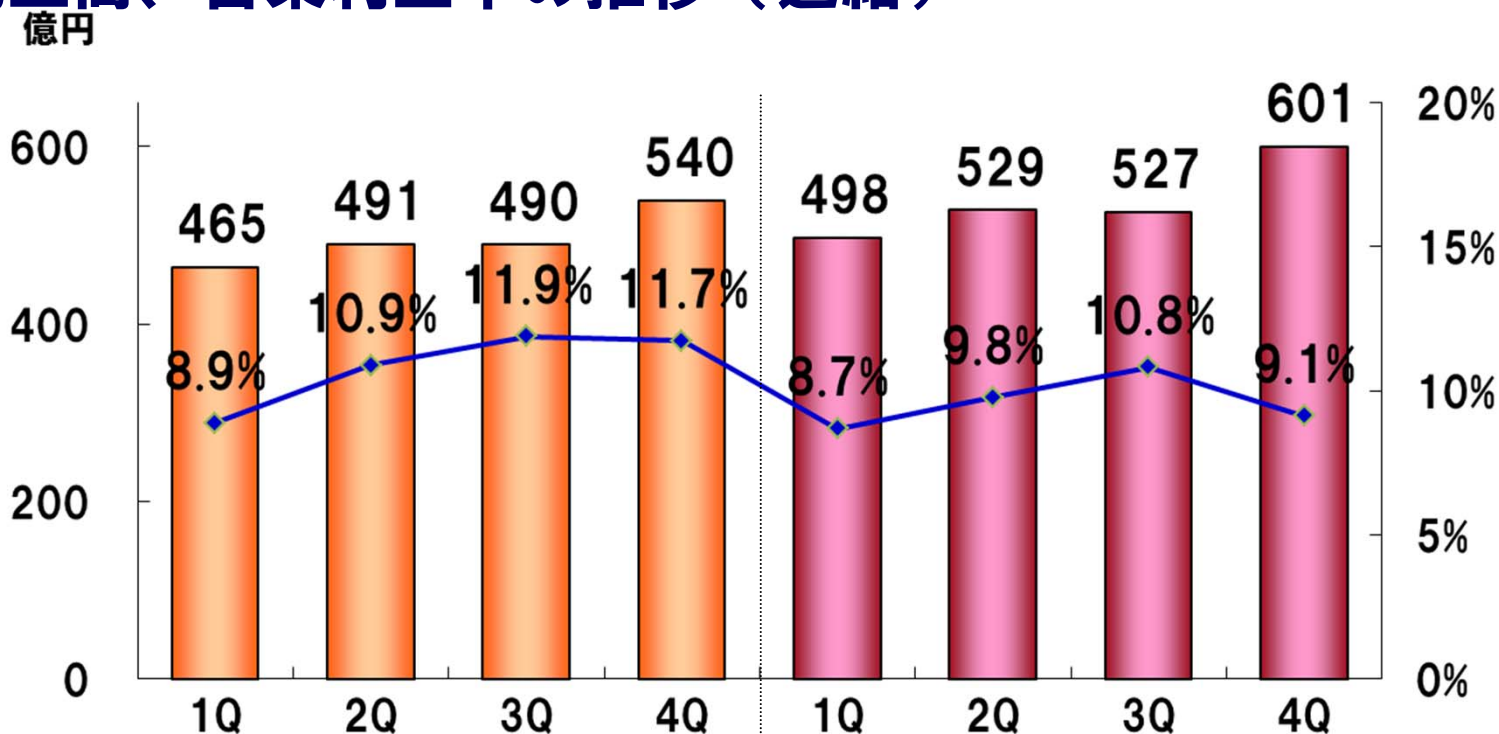
- 前期比で8.5%増収となる一方、先行投資負担や減価償却費の増加、鋼材価格上昇などにより、4.4%の営業減益。

	2017年3月期	2018年3月期	前期比	(単位：百万円)	
	通期実績	通期実績	増減率	'17.05.10期初予想比 予想値	増減率
売上高	198,762	215,716	8.5%	205,000	5.2%
営業利益	21,647	20,694	▲4.4%	20,500	1.0%
営業利益率	10.9%	9.6%		10.0%	
経常利益	22,004	21,743	▲1.2%	21,000	3.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,596	14,666	0.5%	14,500	1.1%
1株当り当期純利益	78.03	77.49	—	76.61	—
(為替レート 1US\$)	108.35円	110.86円	—	—	—
(為替レート 1EURO)	118.76円	129.66円	—	—	—
自己資本比率	57.1%	58.7%	自己資本/総資産		
自己資本利益率 (ROE)	9.9%	9.2%	当期純利益/期中平均自己資本		
ネット D/E レシオ	0.00	▲ 0.03	(有利子負債-現預金)/自己資本		

2. 18年3月期レビュー 四半期毎連結業績の推移

3

■ 売上高、営業利益率の推移（連結）



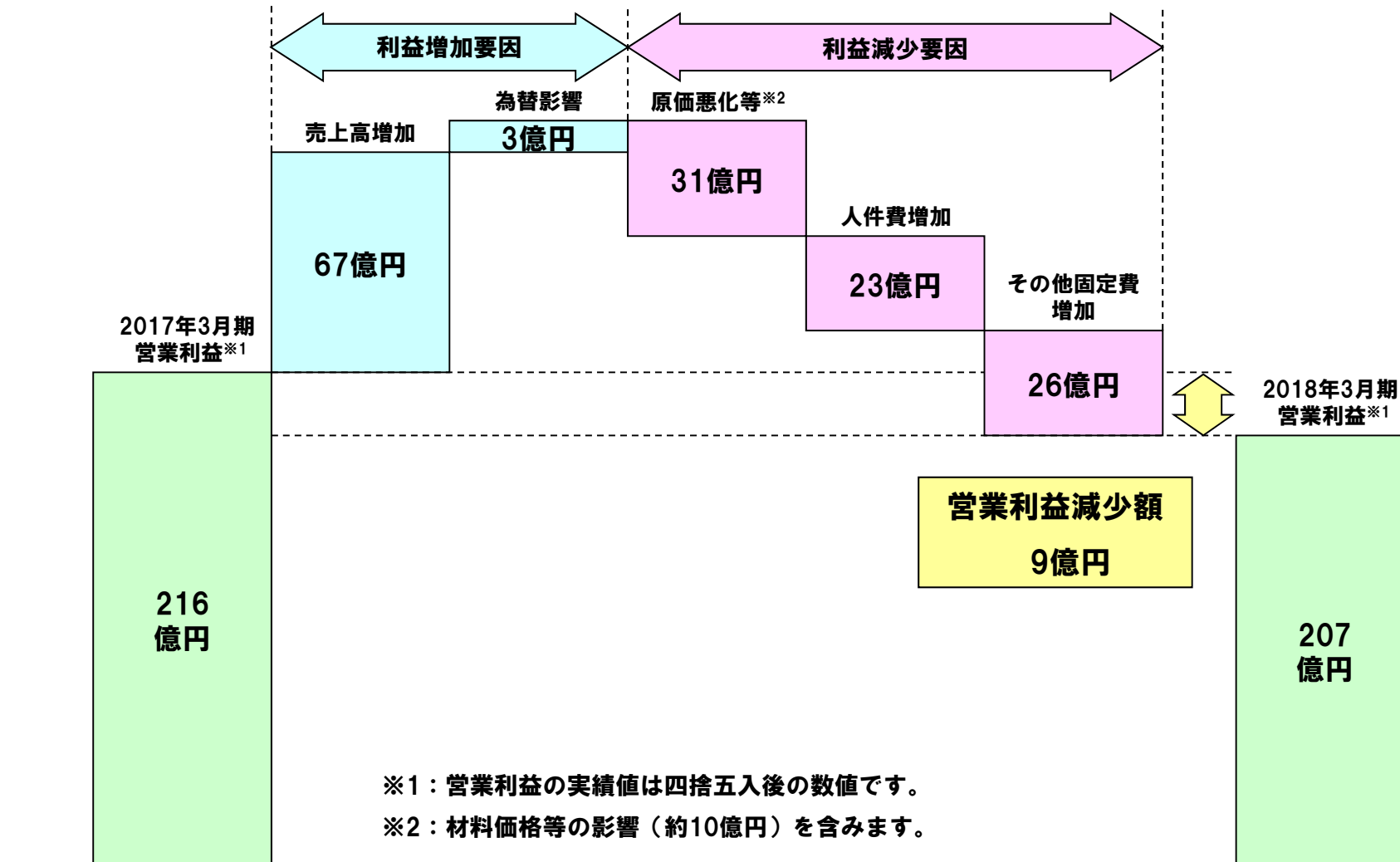
	2017年3月期	2018年3月期
主な為替レート	2017年3月期	2018年3月期
US\$	108.35円	110.86円
ユーロ	118.76円	129.66円

単位：億円、：売上高、：営業利益率

3. 18年3月期レビュー 営業利益増減要因分析

3

■ 2017年3月度実績 vs 2018年3月度実績



4. 18年3月期レビュー 事業セグメント別業績

5

- チェーン、精機が増収増益。
海外子会社の不調によりマテハンは減益。

		(単位：百万円)				
		2017年3月期	2018年3月期	前期比	'17.11.14修正予想比	
		通期実績	通期実績	増減率	予想値	増減率
チェーン	売上高※注1	60,600	67,338	11.1%	63,900	5.4%
	営業利益	7,102	8,502	19.7%	6,980	21.8%
	営業利益率	11.7%	12.6%		10.9%	
精機	売上高※注1	21,563	24,156	12.0%	23,200	4.1%
	営業利益	2,218	3,060	37.9%	2,600	17.6%
	営業利益率	10.3%	12.7%		11.2%	
自動車部品	売上高※注1	75,147	79,545	5.9%	77,400	2.8%
	営業利益	12,385	10,258	▲ 17.2%	10,560	▲ 2.9%
	営業利益率	16.5%	12.9%		13.6%	
マテハン	売上高※注1	41,043	44,187	7.7%	42,500	4.0%
	営業利益	706	416	▲ 41.0%	1,580	▲ 73.7%
	営業利益率	1.7%	0.9%		3.7%	
その他※注2	売上高※注1	3,001	3,331	11.0%	2,900	14.9%
	営業利益	▲ 1	▲ 41	—	20	—
	営業利益率	—	—		0.7%	

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※注2：「その他」は、報告セグメントではありません。

5. 18年3月期レビュー 事業セグメント別業績推移

6

■ 売上高、営業利益率の推移

●チェーン事業

(億円)



<地域別>

- ・日本が好調に推移し、業績をけん引。
- ・米州は動力伝動用チェーンを中心に堅調を維持。
- ・欧州も概ね好調に推移。
- ・中国は前期比で増収、赤字が縮小。
- ・環インド洋は横ばい状態。

●精機事業

(億円)



<地域別>

- ・日本は概ね堅調に推移。増収や工場再編の効果などにより大幅増益。
- ・中国、上海子会社が好調。天津の子会社も回復基調。

単位：億円、：売上高、：営業利益率

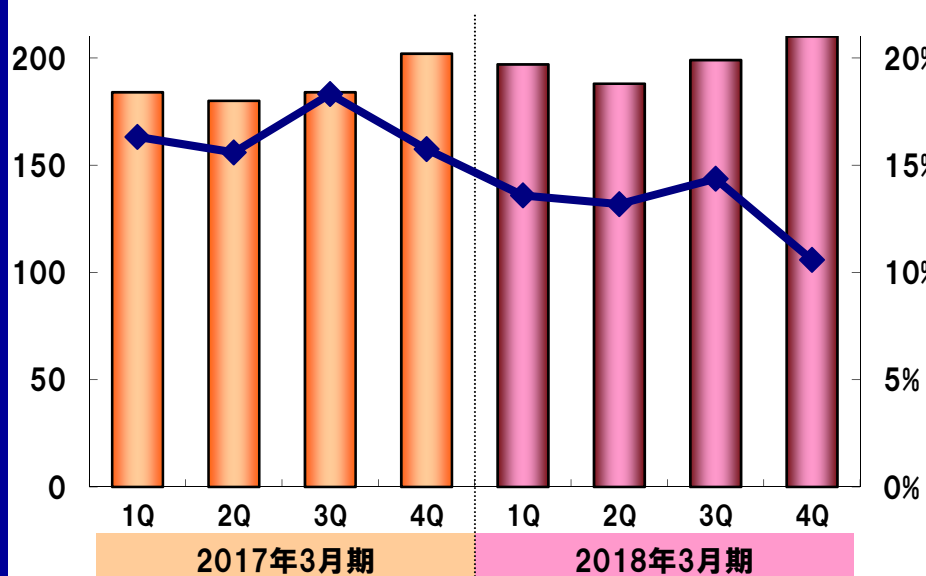
5. 18年3月期レビュー 事業セグメント別業績推移

7

■ 売上高、営業利益率の推移

●自動車部品事業

(億円)

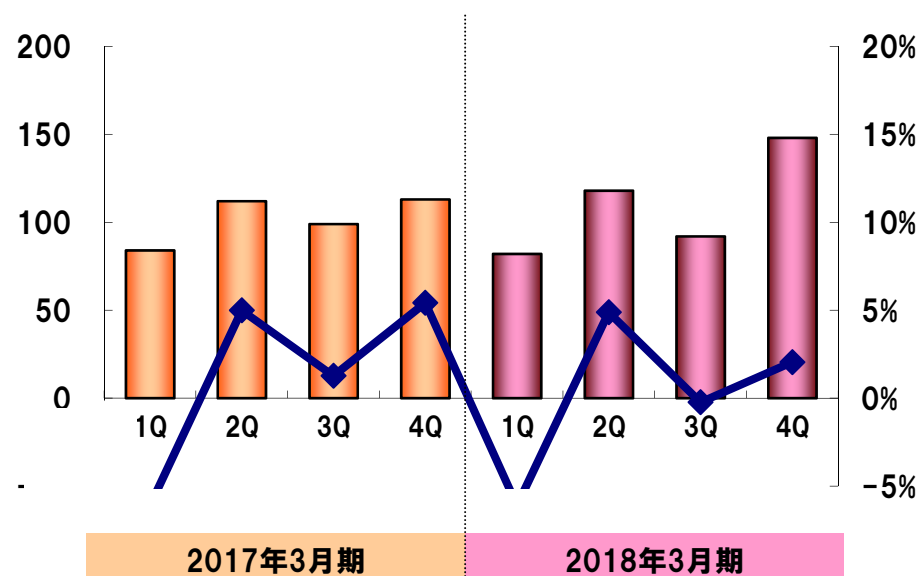


<拠点別>

- ・日本は海外子会社向けの生産が好調も国内販売が減少し、減収減益。
- ・欧州、タイ、中国、韓国、メキシコの子会社は好調を維持。
- ・米国は、市場の大型車回帰の影響を受け納入が減少し、減収。

●マテハン事業

(億円)



<業界別>

- ・日本は流通業界向け、自動車業界向けシステム、粉粒体搬送コンベヤなどの売上が好調に推移し、増収増益。
- ・欧州、米国の工作機械向けコンベヤは厳しい状況で推移し、減収減益。

単位：億円、：売上高、：営業利益率

6. 18年3月期レビュー 所在地別業績

8

		(単位：百万円)		
		2017年3月期	2018年3月期	前期比
		通期実績	通期実績	増減率
米 州	売上高 ^{※注}	50,830	52,862	4.0%
	営業利益	4,853	3,034	▲ 37.5%
	営業利益率	9.5%	5.7%	
欧 州	売上高 ^{※注}	23,181	25,620	10.5%
	営業利益	687	204	▲ 70.2%
	営業利益率	3.0%	0.8%	
環インド洋	売上高 ^{※注}	12,763	14,850	16.4%
	営業利益	1,744	2,138	22.6%
	営業利益率	13.7%	14.4%	
中 国	売上高 ^{※注}	18,186	22,251	22.4%
	営業利益	925	864	▲ 6.5%
	営業利益率	5.1%	3.9%	
韓国・台湾	売上高 ^{※注}	8,378	9,684	15.6%
	営業利益	273	471	72.3%
	営業利益率	3.3%	4.9%	
日 本	売上高 ^{※注}	117,795	125,380	6.4%
	営業利益	11,351	12,203	7.5%
	営業利益率	9.6%	9.7%	

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

<主な実績レート>

'17/3通期：US\$=¥108.35, EURO=¥118.76, Can\$=¥82.51, A\$=¥81.55, THB=¥3.08, NT\$=¥3.41, RMB=¥16.35, WON=¥0.094, MXN=¥5.83

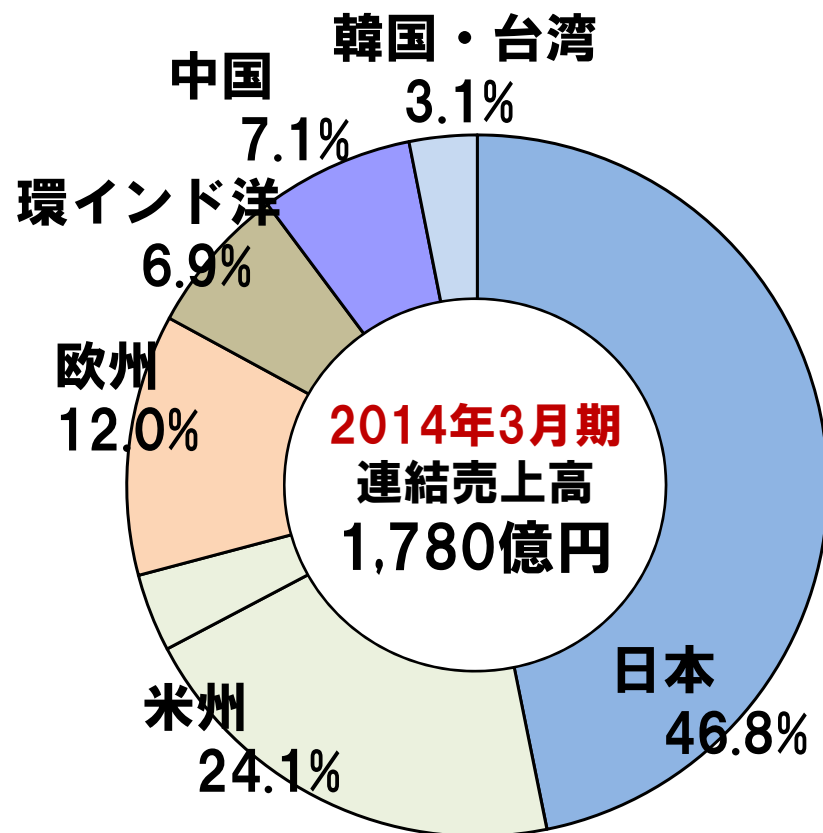
'18/3通期：US\$=¥110.86, EURO=¥129.66, Can\$=¥86.43, A\$=¥85.78, THB=¥3.31, NT\$=¥3.69, RMB=¥16.62, WON=¥0.10, MXN=¥5.94

7. 18年3月期レビュー 地域別売上高比率

9

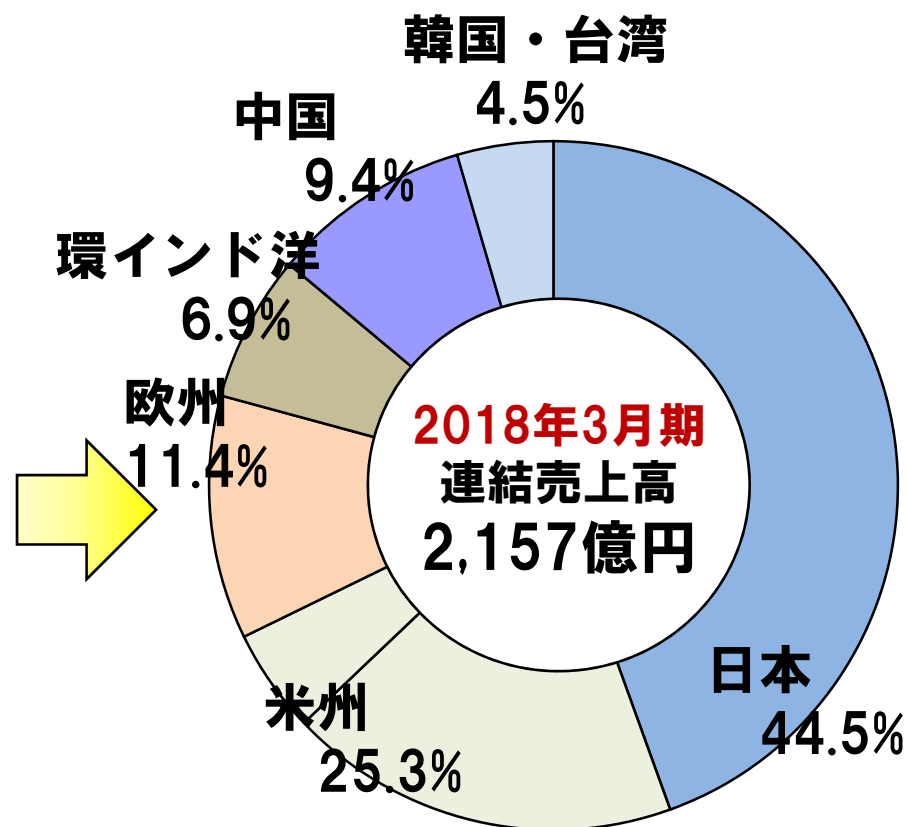
2014年3月期

海外売上高※比率：53.2%



2018年3月期

海外売上高※比率：55.5%



※売上高は、顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。

2019年3月期 連結業績予想

1. 19年3月期予想 通期連結業績

11

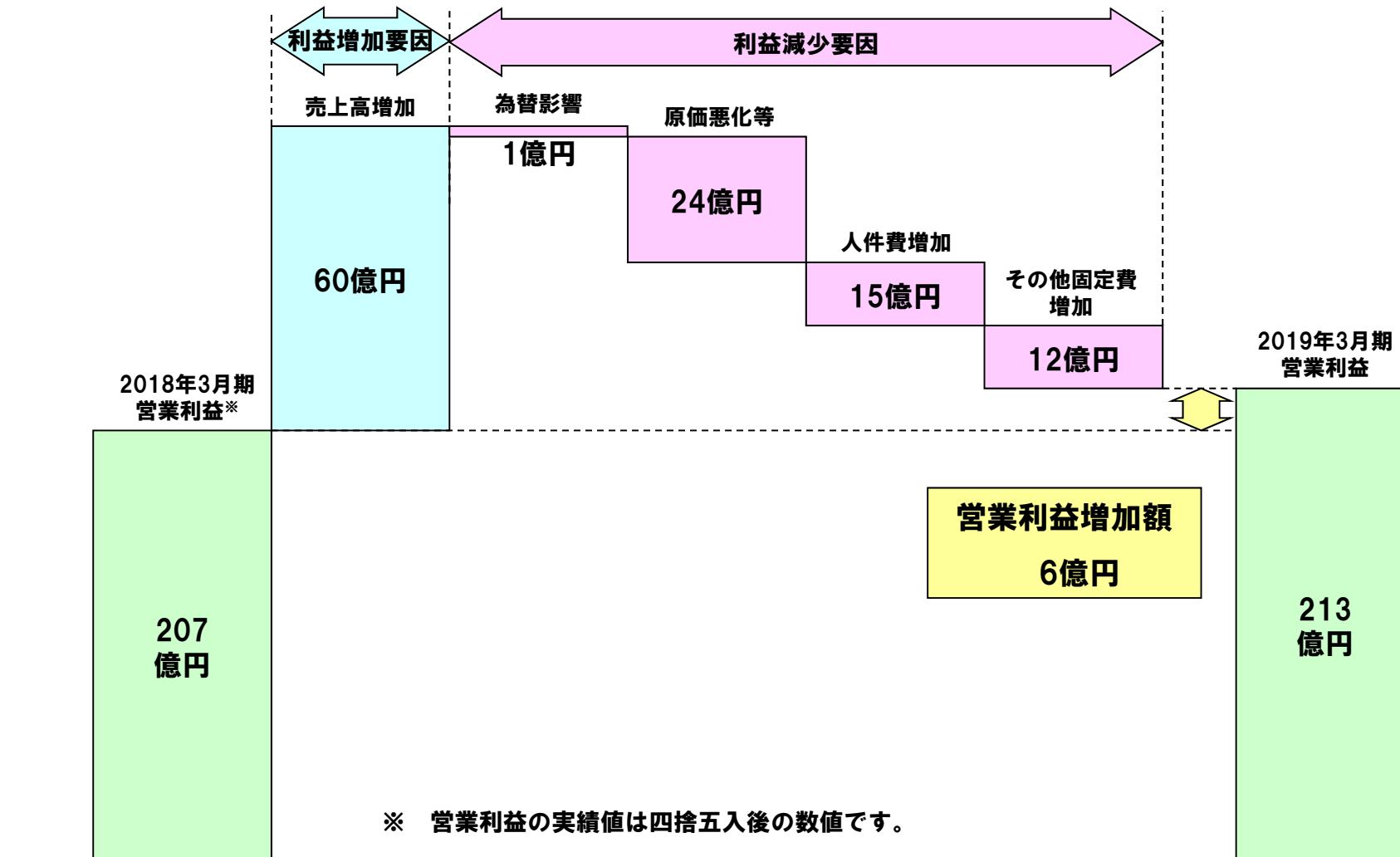
- 売上高は4.3%の伸長も、減価償却費の増加などにより
営業利益は2.9%の増益と予想。

	2018年3月期 通期実績	2019年3月期			前期比 増減率
		上期予想	下期予想	通期予想	
売上高	215,716	110,000	115,000	225,000	4.3%
営業利益	20,694	10,000	11,300	21,300	2.9%
営業利益率	9.6%	9.1%	9.8%	9.5%	
経常利益	21,743	10,400	11,400	21,800	0.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,666	7,500	7,600	15,100	3.0%
1株当たり当期純利益	77.49	—	—	79.78円	—
(為替レート 1US\$)	110.86円	—	—	105円	—
(為替レート 1EURO)	129.66円	—	—	130円	—

2. 19年3月期予想 営業利益増減要因分析

12

■ 2018年3月期実績 vs 2019年3月期予想



3. 19年3月期予想 事業セグメント別業績

13

- 自動車部品は生産増強に向けた先行投資が続くことなどから、10.6%の減益を予想。

		(単位：百万円)				
		2018年3月期	2019年3月期			前期比
		通期実績	上期予想	下期予想	通期予想	増減率
チェーン	売上高 ^{※注1}	67,338	34,300	34,800	69,100	2.6%
	営業利益	8,502	4,160	4,350	8,510	0.1%
	営業利益率	12.6%	12.1%	12.5%	12.3%	
精 機	売上高 ^{※注1}	24,156	12,600	13,000	25,600	6.0%
	営業利益	3,060	1,400	1,470	2,870	▲6.2%
	営業利益率	12.7%	11.1%	11.3%	11.2%	
自動車部品	売上高 ^{※注1}	79,545	41,500	42,200	83,700	5.2%
	営業利益	10,258	4,530	4,640	9,170	▲10.6%
	営業利益率	12.9%	10.9%	11.0%	11.0%	
マテハン	売上高 ^{※注1}	44,187	21,700	24,600	46,300	4.8%
	営業利益	416	780	1,400	2,180	424.0%
	営業利益率	0.9%	3.6%	5.7%	4.7%	
その他 ^{※注2}	売上高 ^{※注1}	3,331	1,700	1,700	3,400	2.1%
	営業利益	▲ 41	30	40	70	-
	営業利益率	—	1.8%	2.4%	2.1%	

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※注2：「その他」は、報告セグメントではありません。

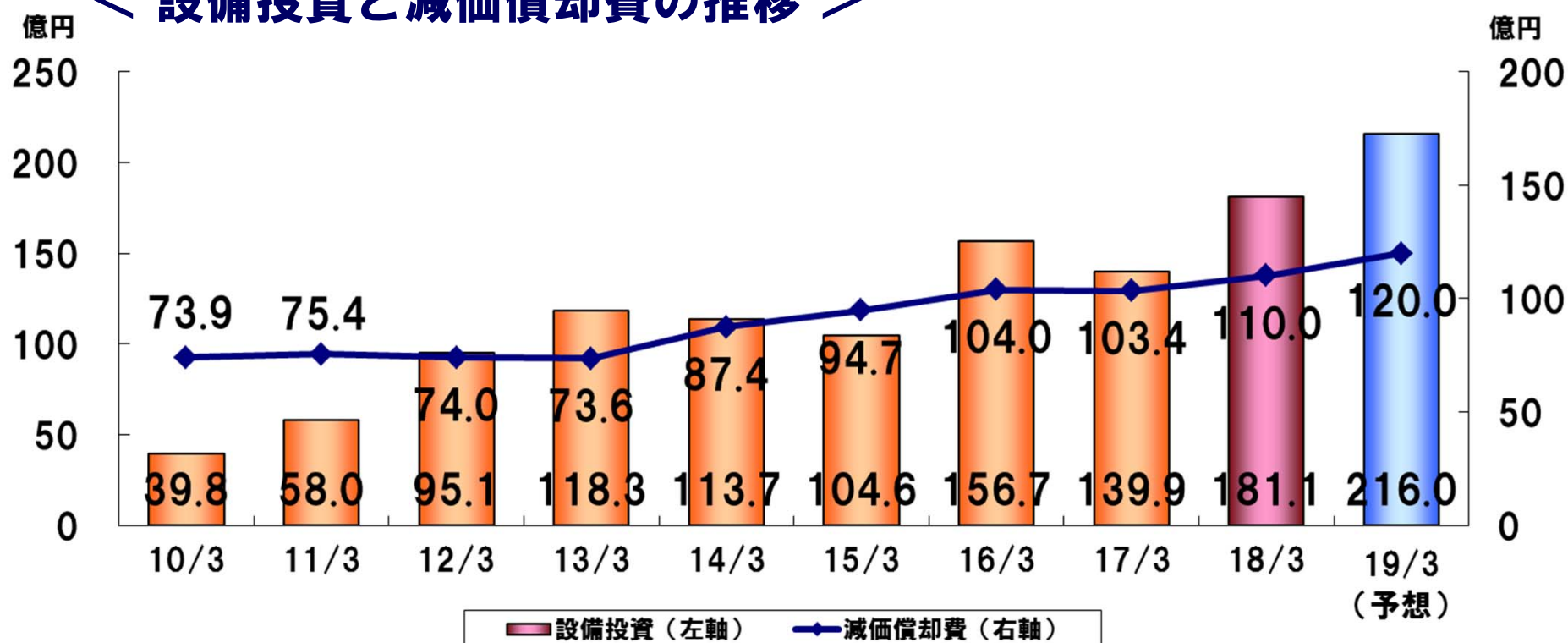
4. 19年3月期予想 設備投資・減価償却費

14

■ 成長力強化に向けた、資本投入

- ① 自動車部品事業のグローバル生産体制強化（埼玉、米国ほか）
- ② チェーン事業の生産設備関連（京田辺、米国ほか）

< 設備投資と減価償却費の推移 >



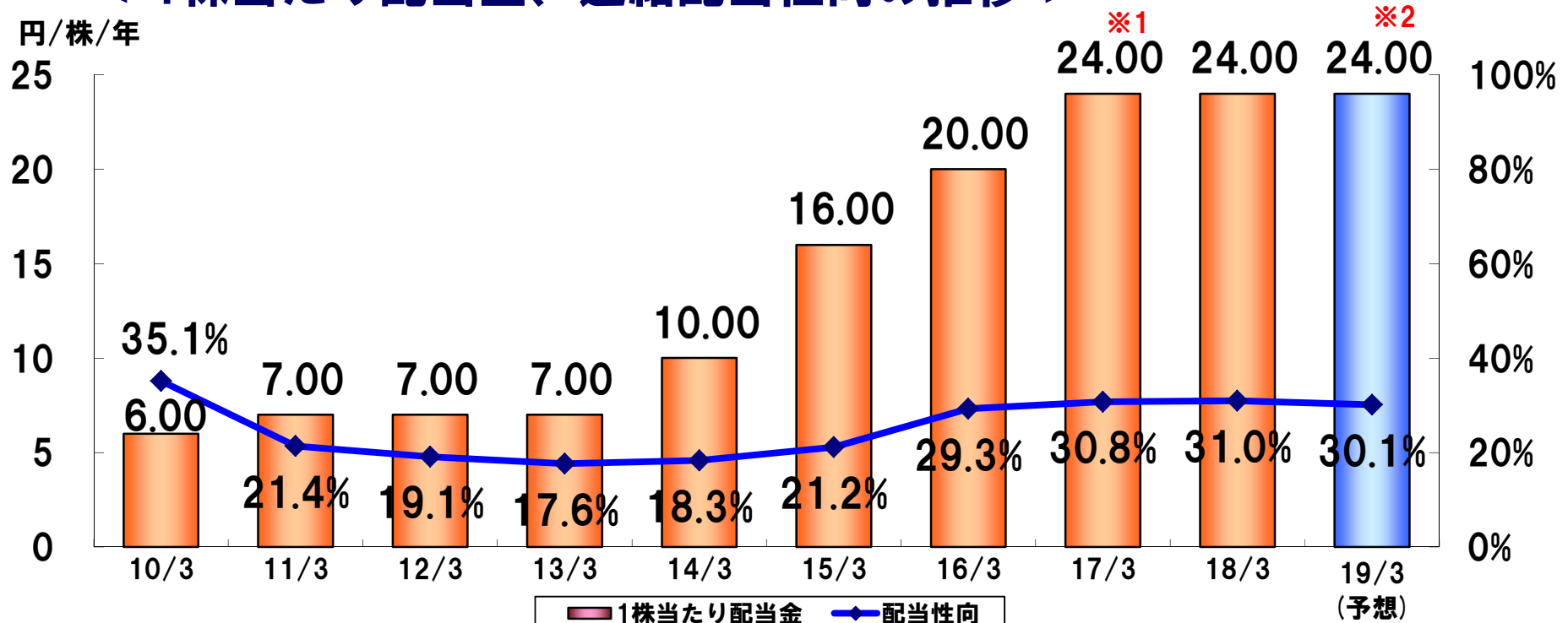
5. 19年3月期予想 株主還元

15

■ 配当方針

- ・ 連結業績を反映した配当を基本方針とし、
連結配当性向30%を基準とした利益配分の実施を目指す。
18/3月期は、従来予想より1円の増配。

< 1株当たり配当金、連結配当性向の推移 >



※1 創業100周年記念配当(2円/株)を含みます。

※2 10月1日効力発生の株式併合を勧案しておりません。

「中期経営計画2020」について

1. 「中期経営計画2020」基本方針

17

～ 全体方針 ～

① マーケットインの企業文化への転換

② グループ総合力の発揮

③ 2020年のあるべき姿の実現

2. 「中期経営計画2020」数値計画

18

◆ 2020年のあるべき姿：**グローバルトップ企業**
ターゲット市場で確固たる地位(シェア)を確立

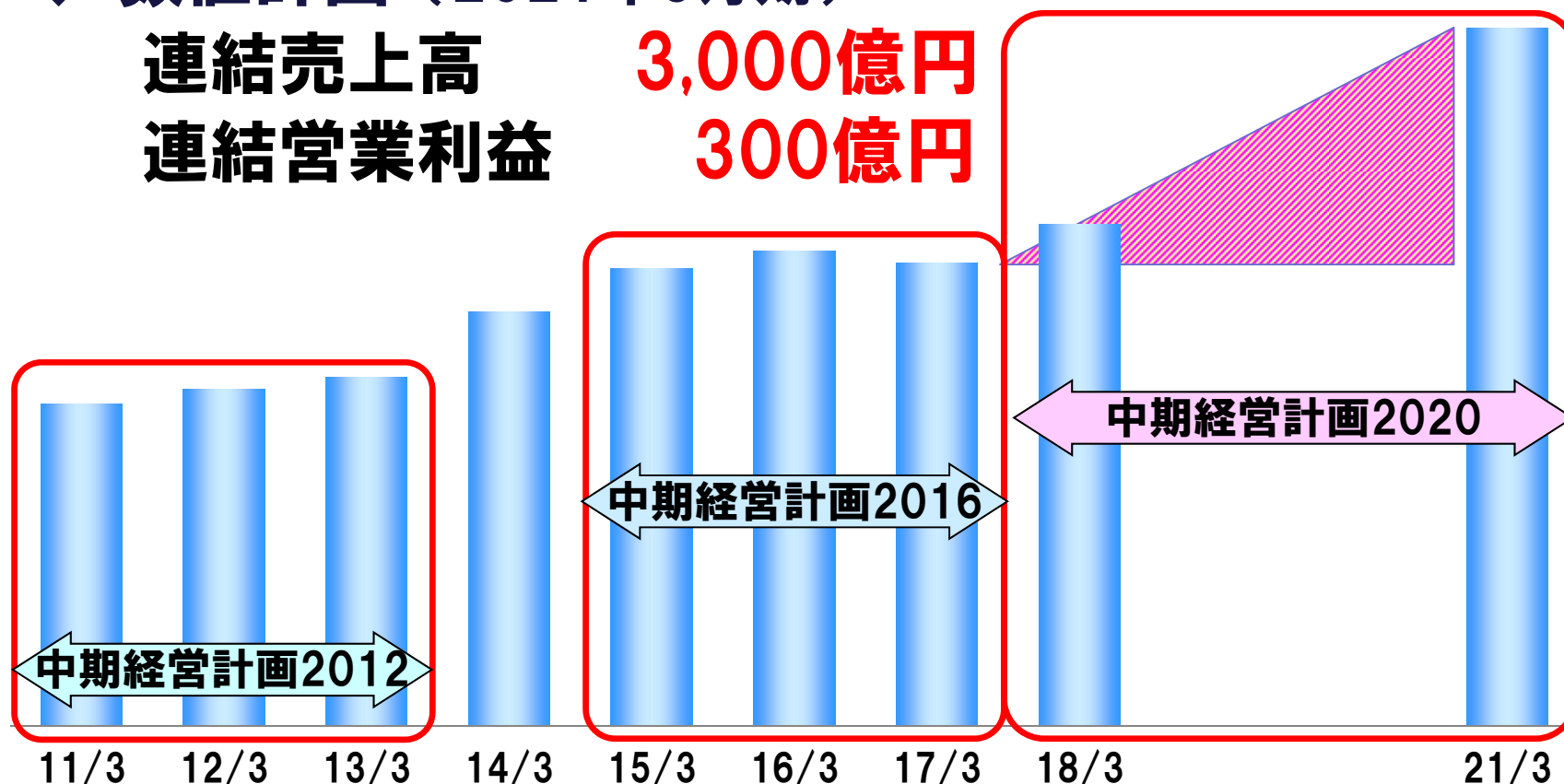
◆ 数値計画（2021年3月期）

連結売上高

3,000億円

連結営業利益

300億円



2018年3月期の成果

1. 2018年3月期の成果

20

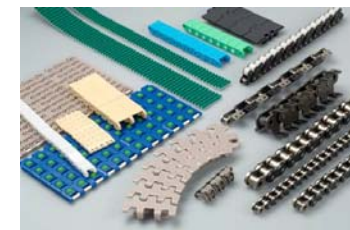
説明のポイント

< 事業セグメントごと >

- ・チェーン事業
- ・精機事業
- ・自動車部品事業
- ・マテハン事業

< テーマごと >

- ・新商品、マーケティング
- ・モノづくり、収益性



2. 2018年3月期の成果（チェーン事業）

21

＜新商品、マーケティング＞

① 「G8シリーズ」標準ローラチェーンの海外発売

② 「スマートコチ®」発売

（強力コチ：2017年6月、
耐環境大形コチ：2017年10月）



スマートコチ

③ ラムダチェーン機種拡大（2017年4月）

④ ケーブルベヤ®（パワースライドドア：PSD）拡大

＜モノづくり、収益性＞

● MIK2018改革活動、生産フロー改革

・ 2017年10月～1月生産性、2013年度比 118%

⇒ 継続フォロー、全体フロー改革で
更なる生産性向上を図る



ラムダチェーン

3. 2018年3月期の成果（精機事業）

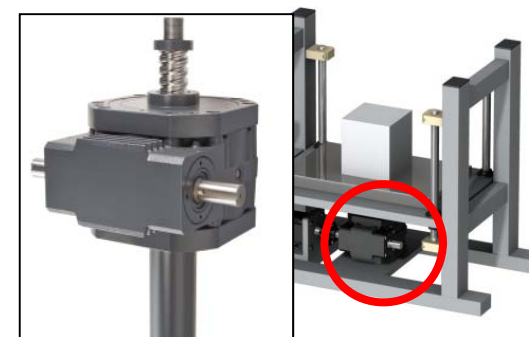
22

＜新商品、マーケティング＞

- ① 「パワーシリンダ[®]Uシリーズ」発売（2017年6月）
- ② 工具折損検知「ショックモニタ[®]」発売
（2017年10月）
- ③ 「リニスピードジャッキ[™]」発売
（2018年1月）
- ④ 二輪スタータクラッチ販売拡大



パワーシリンダUシリーズ



リニスピードジャッキ

＜モノづくり、収益性＞

- ① 国内工場再編による生産性向上
- ② カムクラッチ、チップC/V用減速機の海外SKD※開始

※SKD：Semi Knock Down（セミ ノック ダウン）

4. 2018年3月期の成果（自動車部品事業）

23

＜新商品、マーケティング＞

- ① 厚板サイレントチェーン
- ② FB工法 サイレントチェーン
- ③ クッションゴム付スプロケット
- ④ 海外カーメーカーへの販売拡大



厚板サイレントチェーン



FB工法サイレントチェーン

＜モノづくり、収益性＞

● グローバル生産体制の強化

- ・ 兵庫工場：稼働開始
(2017年10月1日)
- ・ チェコ：開所式(2017年10月18日)
- ・ チコピー：工場建屋完成(2018年2月)
- ・ 天津：第1工場B棟建設開始(2017年6月)
- ・ テネシー：新工場土地取得(2017年8月)



チェコ工場

5. 2018年3月期の成果（マテハン事業）

24

＜新商品、マーケティング＞

- ① リニソート®S-C 改善
- ② SYMTRACK® 改善
- ③ ラボストツカ®150M
 - ・ワンストップバイオリソース事業会社
への出資（2018年3月5日）



リニソートS-C



SYMTRACK

＜モノづくり、収益性＞

- ① 新工場建設（2018年5月28日 稼働式開催、6月稼働開始）
- ② 売上高設計比率低減
- ③ インドネシア工場の活用
 - ・粉粒体搬送コンベヤ、
チップコンベヤの製造



インドネシア工場

2019年3月期の課題

1. 機構改革（2018年4月1日）

26

◎ ねらい

ガバナンスの強化

- ・ 経営責任（取締役）と業務執行責任（執行役員）の明確化

◎ ポイント

① 事業統括の新設

- ・ 現行の4事業部ならびに国内外グループ会社を統括

② 本社部門統括の新設

③ 品質管理部（本社部門）の新設

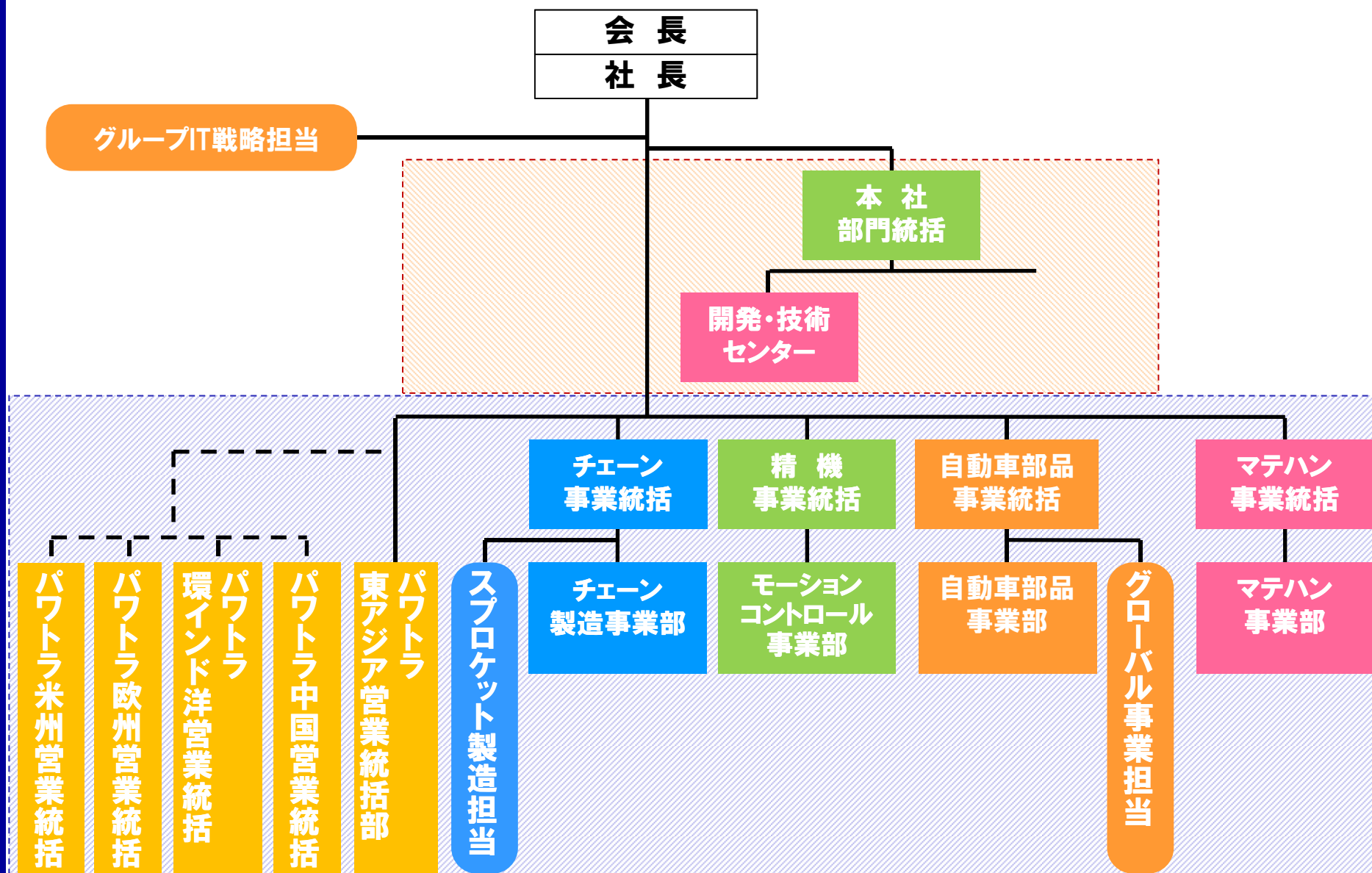
④ 車載新商品開発室（開発技術センター）の新設

⑤ 働き方改革推進室（社長直轄）の新設

⑥ グループ総合力の発揮に向けた 各事業・各拠点のリソースの活用

2. 組織体制（2019年3月期）

27



説明のポイント

< 事業セグメントごと >

- ・ チェーン事業
- ・ 精機事業
- ・ 自動車部品事業
- ・ マテハン事業

< テーマごと >

- ・ 新商品、マーケティング
- ・ モノづくり、収益性

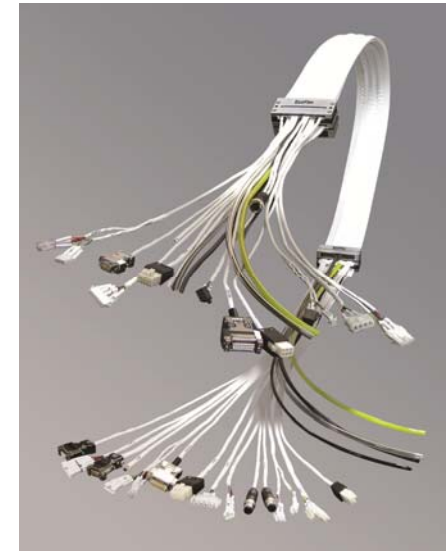


4. 2019年3月期の課題（チェーン事業）

29

＜新商品、マーケティング＞

- ① G8シリーズグローバル拡大
- ② スマートコチ拡大
- ③ ニッチトップケーブルベヤ市場攻略
 - ・ ケーブルベヤ[®]（PSD）
→ 車載ビジネス、ケーブルベヤレス商品
- ④ BS（欧州）市場攻略商品開発



ケーブルベヤレス商品

＜モノづくり、収益性＞

- ① MIK2018（第2章）改革活動と生産フロー改革
- ② 欧州生産拠点確立、グローバル最適地生産



タイタン（ANSI）

5. 2019年3月期の課題（精機事業）

30

＜マーケティング・販売＞

① 海外市場での販売拡大

- ・カムクラッチ
- ・パワーシリンダ[®]

② 国内市場での販売拡大

- ・モジュール・モーション営業部 新設

③ カムクラッチの販売拡大（4輪含む新市場への挑戦）

④ ジップマスタの新発売

＜モノづくり＞

- グローバル最適地生産に向けた
生産品目の仕分けと展開



パワーシリンダ
(パームオイルミル向け)



ジップマスタ

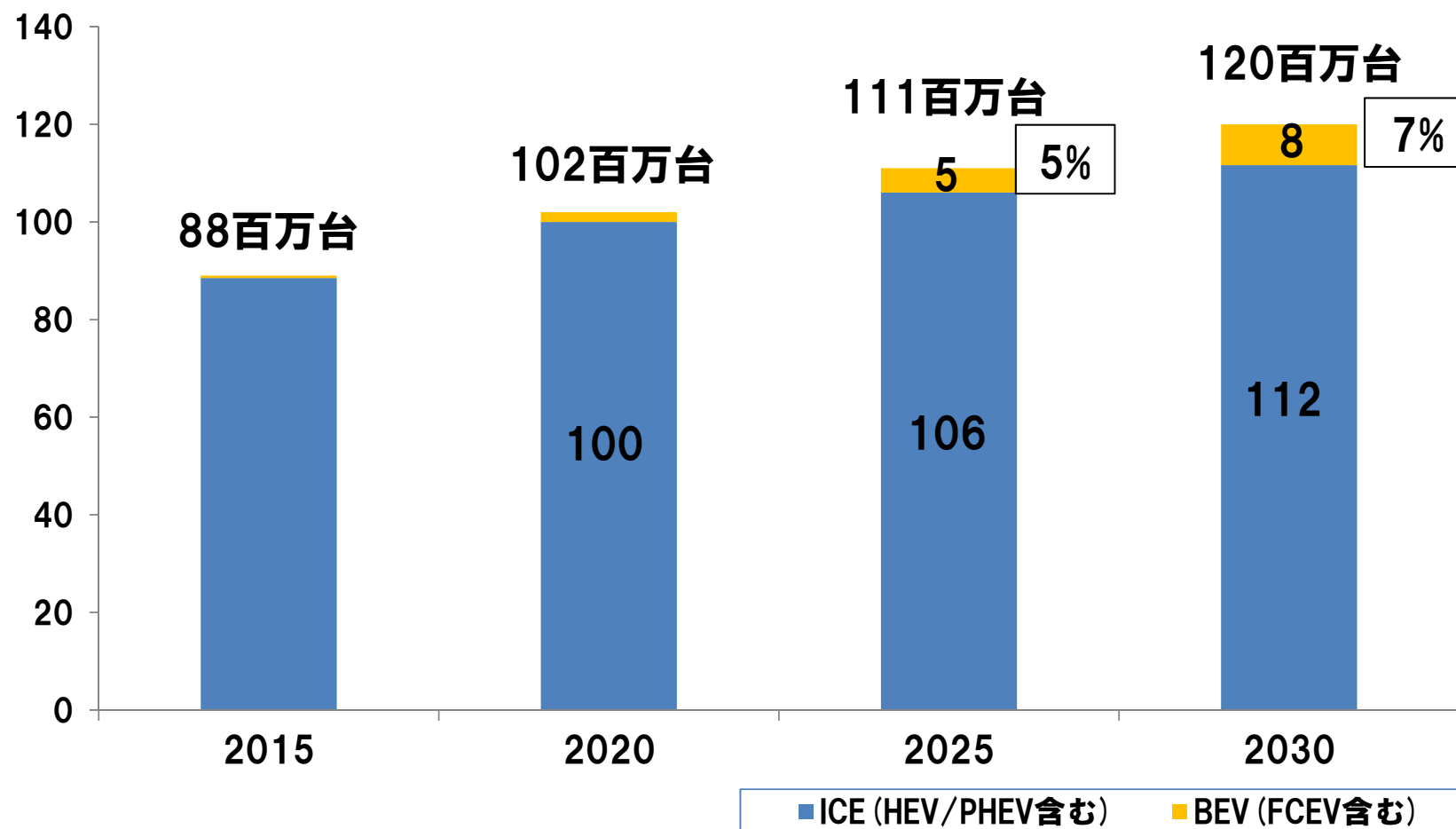
6. 2019年3月期の課題（自動車部品事業）

31

■ 市場最新予測（自動車生産台数と内燃機関Eg vs EV）

※2018年1月

（百万台）



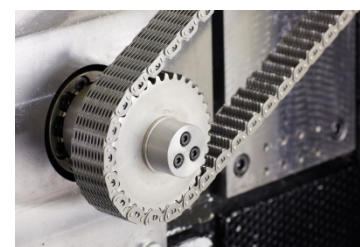
Source : IHS Automotive / 富士経済

6. 2019年3月期の課題（自動車部品事業）

32

＜新商品、マーケティング＞

- ① 電動車対応の新チェーン (ENEDRIVE CHAIN)
開発とマーケティング
- ② 中国・欧州受注活動強化



パワードライブチェーン
(非タイミングビジネス)

＜モノづくり、収益性＞

- ① 継続的な生産性向上、VA/VEの強化
- ② グローバルオペレーションの強化
- ③ 生産性向上を見据えた埼玉工場再編の実行

7. 2019年3月期の課題（マテハン事業）

33

＜新商品、マーケティング＞

- ① 中国、インド、インドネシアを拠点とする
グローバルビジネスの拡大
- ② 新工場と展示機の活用による
商品開発・原価低減と受注拡大



埼玉新工場

＜モノづくり、収益性＞

- ① セル毎、プロジェクト毎での管理の徹底と
BEP低減による利益体質への変革
- ② MD（モジュラーデザイン）活動、VA/VE活動、
置きポン化によるコストダウンと品質向上

7. 2019年3月期の課題（マテハン事業）

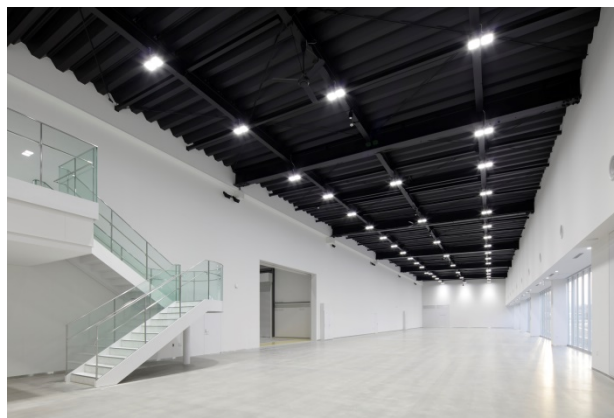
34

新マテハン工場（埼玉工場）

- 魅せる工場
（ショールーム設置）
- 環境対応型工場



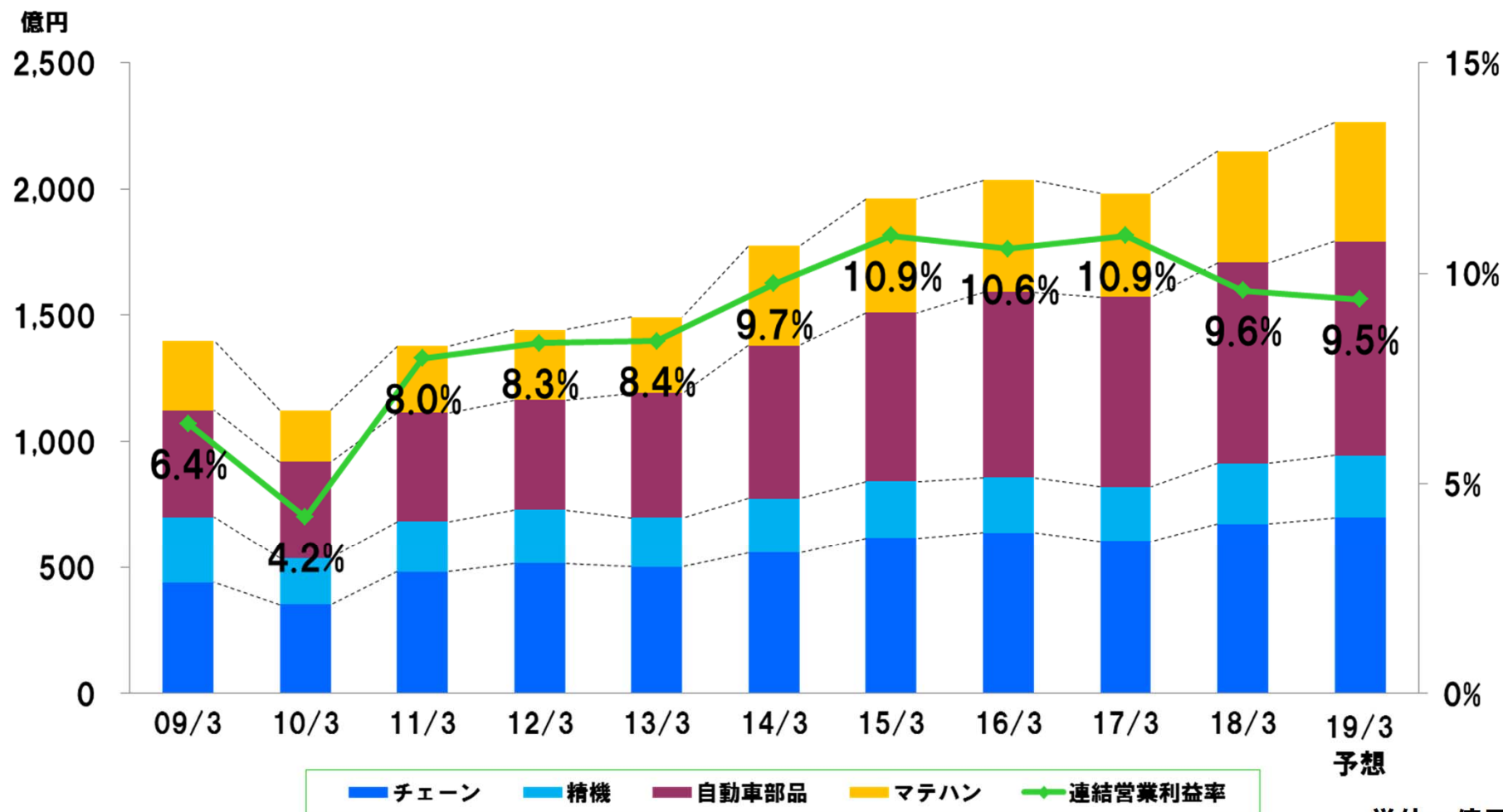
⇒ 2018年5月28日 稼働式開催、6月稼働開始



**本資料に記載している事業計画および業績予想等に関する記述は各資料の作成時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想とは異なる結果になり得ることをご承知おきください。**

参考データ

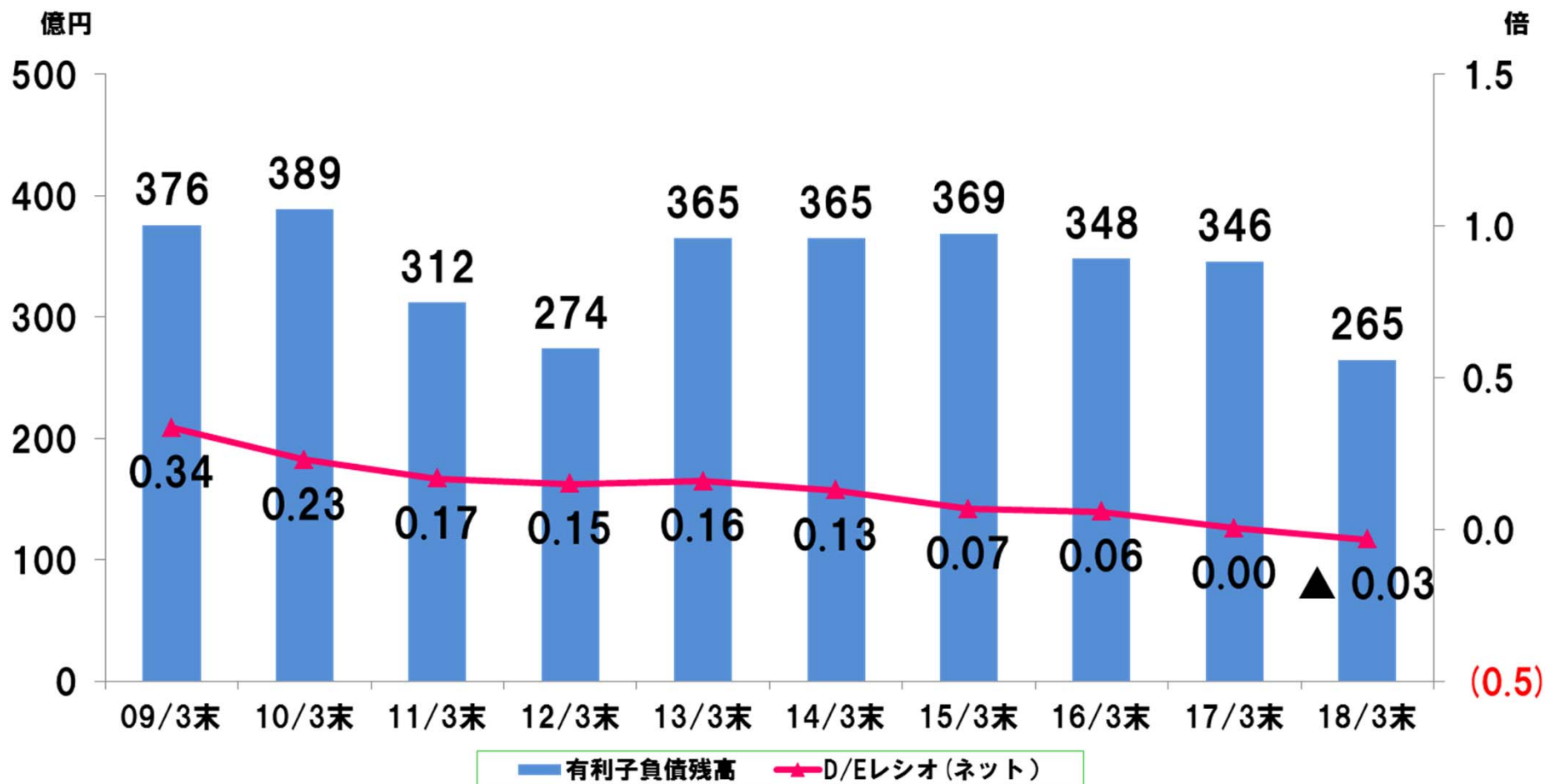
<ご参考> 連結売上高、営業利益率の推移



単位：億円

	09/3	10/3	11/3	12/3	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3予想
連結売上高	1,415	1,127	1,382	1,448	1,500	1,780	1,967	2,039	1,987	2,157	2,250
営業利益	90	47	110	120	125	173	214	215	216	206	213

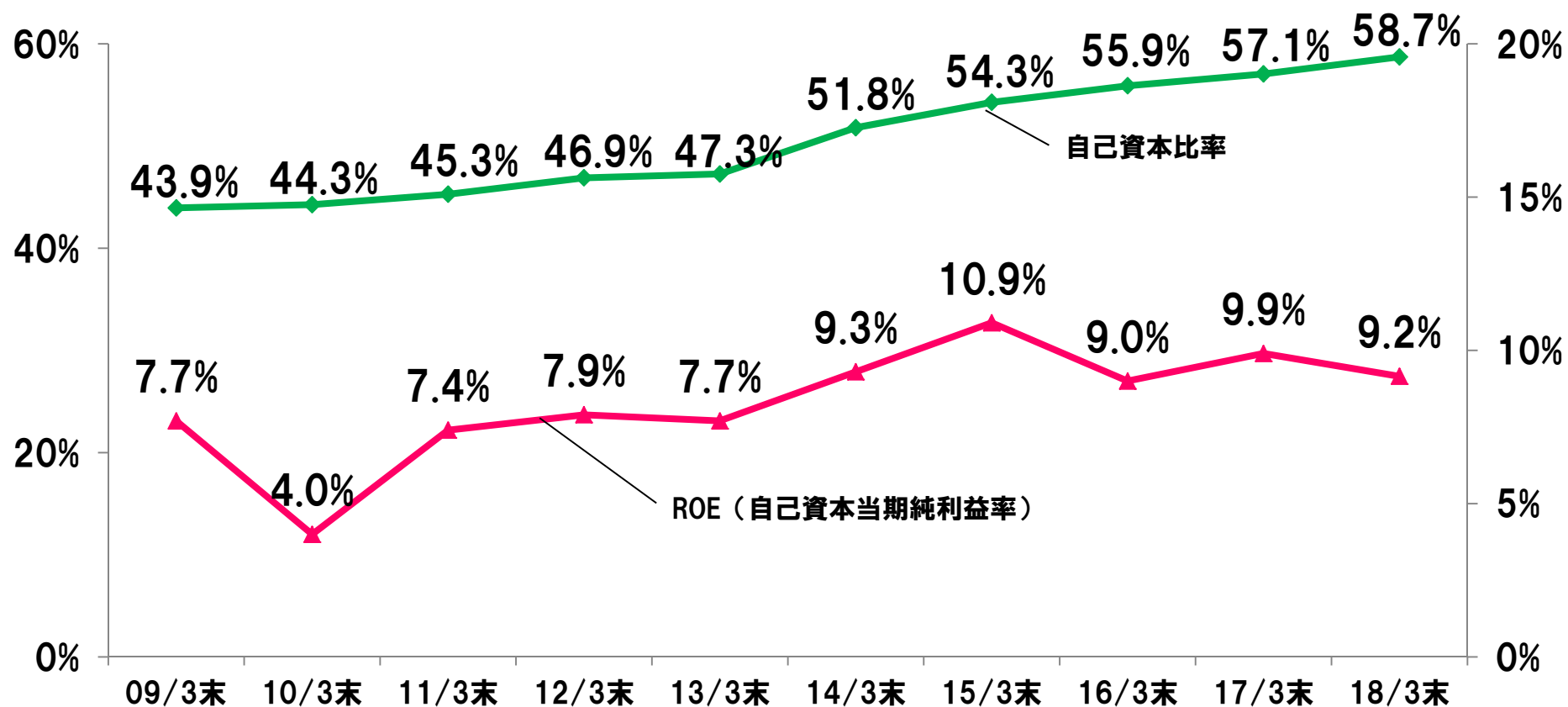
<ご参考> 有利子負債、ネットD/Eレシオの推移



単位：億円

	09/3末	10/3末	11/3末	12/3末	13/3末	14/3末	15/3末	16/3末	17/3末	18/3末
有利子負債残高	376	389	312	274	365	365	369	348	346	265
D/Eレシオ (ネット)	0.34倍	0.23倍	0.17倍	0.15倍	0.16倍	0.13倍	0.07倍	0.06倍	0.00倍	▲ 0.03

<ご参考> 自己資本比率、ROEの推移



	09/3末	10/3末	11/3末	12/3末	13/3末	14/3末	15/3末	16/3末	17/3末	18/3末
自己資本比率	43.9%	44.3%	45.3%	46.9%	47.3%	51.8%	54.3%	55.9%	57.1%	58.7%
ROE	7.7%	4.0%	7.4%	7.9%	7.7%	9.3%	10.9%	9.0%	9.9%	9.2%